

中国中世の鬼神観について

About the sense of 'GuiShen(Ghosts and Supernatural beings)' in the medieval China

佐々木聡 (Sasaki Satoshi), 博士課程後期 2 年, 文学研究科歴史科学専攻比較文化史専攻分野, 磯部彰, satobo3@hotmail.com (415 院生室)

キーワード 小説史、鬼神、妖怪、志怪、伝奇

中国の小説史を彩る存在として鬼 (Gui, 靈魂・妖怪) や神 (Shen) がいる。中国の伝統的な冥界観 (死生観) では、これら鬼神が現世の制度を模した冥界の官僚機構の中に組み込まれている場合が多い。しかし、「志怪」や「伝奇」のジャンルに属す初期の小説は、同じ冥界を舞台にするものが多いにも関わらず、その背景となる冥界や鬼神の概念を体系的に説明した描写となると非常に乏しい。それに対して、一部の道教経典には、体系的な鬼神や冥界の在り方が、細部まで描写されている。そのため、これらの経典資料は、中国の伝統文化の中で大きな位置を占める小説文化を読み解く上で、大きな手がかりとなる。

本発表では、小説の源流である志怪書の黎明期に当たる六朝時代 (220-589 年) 初期に成立した『女青鬼律』、及び唐代 (618-907 年) の成立と思われる『道要靈祇神鬼品経』 (以下、『神鬼品経』と省略) の比較を中心として、異なる社会相を背景とした鬼神に対する感覚 (鬼神観) の相違を浮き彫りにする。

まず、『女青鬼律』は、3 世紀から東晋 (371-420 年) 初期に成立したとされる道教経典である。その中には、雑多な神々や幽鬼、妖怪などの具体的な描写が見えるが、特筆すべきは、それが現世を模した官僚機構 (冥界の官僚機構) を背景とし、鬼や妖怪もまた冥界の戸籍によって管理されているという点である。これは現世と変わらない制度・法令が死後の世界においてもイメージされていたことを意味する。また、その中には善神に近い冥界の官吏の鬼も存在する。この鬼は、冥界の法令に則って、悪さをする鬼や戸籍を抜けた鬼 (悪鬼・妖怪) を取り締まる存在である。その一方で、冥界の官吏でありながら、職権を濫用して悪さをする者も存在する。

対して、『神鬼品経』は、『女青鬼律』を中心として、鬼神の描写を諸書から抜粋して集めた経典であり、その本文は全て引用文という特異な性質を持つ。そこで、『神鬼品経』と『女青鬼律』の記述内容を比べてみると、『神鬼品経』では『女青鬼律』の文章を継ぎ接ぎし、節略した上で引用していることが窺える。加えて、『神鬼品経』では、『女青鬼律』の特徴である冥界の官僚機構や戸籍制度などが殆ど認識されず、本来ならば善悪どちらの性質も有する鬼もほとんど一律に悪鬼として扱われていることが指摘できる。

このような鬼に対するイメージの変遷の背景には、乱世である六朝時代から、比較的社会が安定した唐代へと、社会相が変化していくのに伴い、鬼神観もまた変遷していったことが窺える。つまり、乱世では絶えず現実味を持って認識された横暴な悪徳官僚のような鬼のイメージが、社会が安定した唐代ではもはや認識しづらいものであったのである。

